

## 2023年度 第2回秋田市中心市街地活性化協議会開催結果

2023年12月22日（金）10時00分より、秋田商工会議所ホール80において、秋田市中心市街地活性化協議会を開催しましたので、その内容について公表します。

### （議事内容）

○場 所 秋田商工会議所 7階 ホール80

○出席者 委員：15名 オブザーバー：16名 計31名

○懇 談 テーマ：まちなかウォークブル推進事業について  
ゲスト：東北地方整備局 建政部 都市・住宅整備課 建設専門官 渡辺 央 氏

○報 告 （1）秋田市中心市街地活性化プランに関する事業等の進捗  
①佐竹史料館建設工事の概要について  
②千秋美術館のリニューアルオープンについて  
（2）秋田市中心市街地活性化協議会事業の進捗  
①千秋蓮まつり2023の開催結果  
②10/8 広小路バザールの開催結果  
（3）あきた芸術劇場ミルハス開館1年の経過状況について  
（4）秋田市外旭川地区まちづくり基本計画素案について  
（5）その他

○情報提供 （1）東北経済産業局からの事業紹介

### （発言内容）

#### 【社長の開会挨拶】

- ・ 中心市街地の活性化に向けて、これまで以上に幅広く商業者等から意見を伺う為、新たな委員として「すずらん通り商店街」と「秋田パティオ協同組合」から加わっていただくこととした。本日は両委員とも欠席の為、次回に紹介させていただく。
- ・ 今年は多くのイベントが復活し、「広小路バザール」は、7月は記録的大雨で中止となったが、10月は過去最高の5万人が来場し賑わいが創出された。
- ・ 中核となる「あきた芸術劇場ミルハス」は、グランドオープンから1年が経過し、入場者数は80万人を超えたと伺っている。後程、進藤館長から報告いただくが、引き続き、周辺商店街等との連携による相乗効果を期待する。
- ・ 一方で、本市の人口は33年振りに30万人を下回ったことを危惧している。人口減少が市民生活や地域経済に与える影響を最小限に留める為にも、持続可能な「選ばれるまち」を目指し、中心市街地の活性化に取り組む必要があることから、今後も引き続き協力をお願いしたい。

- 本日は、「まちなかウォーカブル推進事業」について東北地方整備局の渡辺建設専門官がオンラインで説明後、中心市街地活性化プラン等に関する進捗状況、ミルハス開館 1 年の経過状況、外旭川地区まちづくり基本計画素案についてそれぞれ報告し、最後に東北経済産業局から支援施策を情報提供いただく盛り沢山の内容となっている為、円滑な進行に努めていく。

## 【懇 談】

### テーマ：まちなかウォーカブル推進事業について

東北地方整備局建政部都市・住宅整備課の渡辺建設専門官はオンラインで以下のとおり説明した。

- 都市は、多様な人々が集まり・交流することでイノベーションが起こり、新たに発生する社会課題を解決する場としての機能を持ち、米国・ブルッキングス研究所レポート「イノベーション地区の勃興」によると、イノベーション創出には、「経済資産」「ネットワーク資産」と併せて「空間資産」が必要とのこと。
- 海外の事例から、これまでのクルマ中心の空間を有効活用して、人間中心のウォーカブルな空間へと改変することが、新たな価値創造や地域課題の解決へと繋がると考えている。国内でも、まちなかで歩ける範囲のエリアを対象に、街路、公園、広場等の公共空間、民間空地、沿道建物の 1 階部分等の官民空間をエリア一体でリノベーションするなど、一部地方都市で進められている。
- ウォーカブルなまちづくりを推進にあたり、官民による連携を重要視している。少子高齢化・人口減少社会の時代の変化で従来のような行政主体のまちづくりには限界があり、つくる時代から「有効活用する」時代になったことで、公共空間や空き地等に対する視点が「オープン・共有」へと変わった。また、コロナ禍で改めて身近な地域やオープンスペースが注目され、「市民目線・利用者目線」でのまちづくりの必要性が高まっている。
- 国交省ではまちなかウォーカブル推進事業のほか、公共空間の利活用やまちづくりを担う人材の育成、官民連携まちづくりの機運醸成など様々な事業を支援している。まちなかウォーカブル推進事業は、都市再生特別措置法に基づく滞在快適性等向上区域を設定し、区域内での基幹事業や提案事業が対象となり、対象施設は駐車場や地域防災施設、緑化施設、地域生活基盤施設など多岐にわたる。また、実際のインフラを整備するまでに必要な計画の策定に要する調査費用や社会実験、コーディネート等も支援対象となる。
- 実例として、歩きたくなる空間の創出に向けた街路等の広場化や公園・広場の整備・改修などのほか、建物の外観修景や既存建造物リノベーション、給排水設備や電源設備等公共空間利活用施設整備を行っている自治体もある。
- 令和 5 年度からの拡充内容としては、都市計画区域外の地域生活拠点を施行地区要件へ追加、デマンド交通等の公共交通による利便性確保を図る区域を施行地区へ追加、滞在者等の滞在及び交流を促進することを目的とした施設（通称・まちなかハブ）に要する整備費用を補助対象へ追加、基幹事業「道路」の補助対象として都道府県道及び都道府県が管理する国道が追加（都道府県が事業主体となる場合に限る）された。
- 全国からウォーカブル推進都市を募集し、11 月末時点で、秋田市を含む 358 団体から賛同を得た。また、新たな街路空間の在り方を議論する場として、全国会議「マチミチ会議」を立ち上げ、「マチミチ現地勉強会」を各地で開催し、自治体間での先進的な取組の共有や意見交

換を開催しているほか、全国の担当者の参考となるようなウォークアブルポータルサイトを開設し各地の担当者の声や事例を掲載しているため、秋田市の活動の参考にさせていただきたい。

#### <意見・質問>

秋田公立美術大学の小杉委員が以下のとおり発言した。

- ・ウォークアブルなまちづくりは、世界的な潮流であり、秋田のポテンシャルを活かすには必要な視点だと考えている。中心市街地では芸術文化ゾーンが充実し、周辺道路へのアクセスが変わり始めている。近年、広小路バザールを開催し盛況を収めているが、全面通行止めでの開催だけではなく、例えば一車線のみを通行止めにして、ある程度の期間開催することや、中央通りの一車線を歩行者占有空間とするなど、自動車と歩行者がどのように共存できるかの実証実験を行っても良いかもしれない。
- ・公共交通に対する考え方も大切になってくる。オンデマンドのような最新技術の導入も大事だが、路線網は昔の都市構造に合わせているため、都市構造が変わっている中で採算がとれない状況になっている。最新技術に頼るだけでなく、今ある公共交通網を検証、再編集することでもドラスチックに状況を変革することも可能だと考えている。具体的には、現状の路線を、乗り換え利用を前提としたものに再編することによりバス交通の可能性は大きく広げることができよう。現在ある資源をどう活用していくかを含めて、事業者だけでなく行政等と一緒に検討すべきである。

#### 【報 告】

##### (1) 秋田市中心市街地活性化プランに関する事業等の進捗

###### ① 佐竹史料館建設工事の概要について

佐竹史料館の伊藤事務長が以下のとおり報告した。

- ・建設予定地は、老朽化と狭隘の問題から現地での建て替えで進めてきた。昨年度は、実施設計と建物の解体を行った。今年度工事着手で進めてきたが、5月の入札が不調となり、10月に再入札を行った結果工事事業者が決定し、この度工事着手の運びとなった。
- ・構造・階数は鉄筋コンクリート造一部鉄骨造の地上2階建て、延床面積は2,607.94㎡と、従来の史料館よりも大きく建替えを行う。主な機能としては、常設展示室、企画展示室、展示ホールを確保するほか、収蔵庫や講義室なども設計している。建築、電気設備、機材設備、展示の4工種に分けて発注し、工期は令和5年12月末から令和7年7月まで予定し、開館は令和7年10月を予定している。
- ・千秋公園南側の大坂を工事車両が通行する為、周辺施設等からの理解・協力を得ながら工事を進める。また、イベント等の開催時には工事業者と調整を図りながら対応していく。

###### ② 千秋美術館のリニューアルオープンについて

千秋美術館の大淵事務長が以下のとおり報告した。

- ・令和4年7月から本年6月にかけて休館を伴う大規模改修を行っている。当館が入居するアトリオンビルが平成元年の開館から30年以上が経過し、施設・設備の老朽化が進んでいた為

大規模な改修を行い、合わせて展示環境の劣化による美術館としての課題を解消し、機能の回復や魅力向上を目指したもの。

- リニューアルオープンは、令和 6 年 6 月 29 日を予定しており、合わせて、企画展の開催を企画している。
- 改修後の状況は資料のとおりだが、エントランスは、改修前は仲小路側の入口とアトリオン内入口の 2 か所あったが、来館者が分かりやすく入りやすいように 1 か所に集約し間口を広げている。1 階ロビーは、受付カウンターの移設や情報コーナーの設置など、レイアウトを変更している。情報コーナーには、秋田街道絵巻など全場面展示が難しい作品が閲覧できる作品閲覧システムや美術関連図書を配置する予定。ワークショップや講演会を 3 階の講堂で開催しているが、使いやすくする為に 2 階から 3 階への階段を新設した。
- 2 階は 3 室の展示室があるが、展示ケースや壁面パネルを更新し、作品の展示環境やフレキシビリティの向上を図っている。新たな取り組みとして、秋田蘭画の常設コーナーを新設した。これまでは常設展示が難しく行っていなかったが、コーナーの設置により観光客や蘭画ファンの要望に答えることができると考えている。また、これまで作品の見え方や鑑賞者の動線に支障のあった比較的狭い展示室 2 室を統合した。
- 当館は、約 2 年の長期休館となり、来館者が戻ってくるか懸念されるころではあるが、企画展事業や関連事業の充実化を図り、当館のみならず中心市街地に多くの方が訪れるよう努めていきたい。

#### <意見・質問>

NPO 秋田バリアフリーネットワークの菅原委員が以下のとおり発言した。

- バリアフリーの検証をする為に、佐竹史料館の配置図や平面図はどこで確認できるのか。

佐竹史料館の伊藤事務長は以下のとおり発言した。

- 改築基本計画は佐竹史料館ホームページで確認でき、工事図面は秋田市ホームページ（公告と開札結果）で公開している。詳細な図面を所望される場合は、公開されているものであれば佐竹史料館としても示すことができるので直接問合せいただきたい。

NPO 秋田バリアフリーネットワークの菅原委員が以下のとおり発言した。

- 千秋美術館の改修内容にサイン関係が示されていないが、サイン関係も一緒に改修したのか。

千秋美術館の大淵事務長が以下のとおり発言した。

- 内装を更新しているので、その際にサイン標示も更新している。

辻会長が以下のとおり発言した。

- 佐竹史料館建設工事の工期が令和 5 年 12 月末から令和 7 年 7 月までとなっているが、大坂は通行できるのか。観桜会と時期が重なるほか、千秋公園を訪れる観光客にどう対応するのか。

佐竹史料館の伊藤事務長は以下のとおり発言した。

- ・観桜会などの通行量が多い時期は、工事車両の通行を調整し対応する。通常の観光客等については、大坂の各所に交通整備員等を配置して安全に通行できるよう対応する。なお、通行止めは実施しない方向で工事を進める予定。

## (2) 秋田市中心市街地活性化協議会事業の進捗

### ① 千秋蓮まつり 2023 の開催結果について

事務局が以下のとおり報告した。

- ・秋田観光コンベンション協会が実施する「千秋公園蓮の花ライトアップ」と連携して、交流人口の拡大とナイトタイムを含む継続的な賑わいを創出する為、「千秋蓮まつり」と称し周辺商店街や飲食店等と連携を図りながら期間中様々なイベント企画を実施した。
- ・千秋公園蓮の花ライトアップは、7月14日から8月31日までの49日間実施した。3年目を迎え、夏の風物詩として市民への浸透が図られた。中土橋やお堀端では、ライトアップを鑑賞する方々や写真撮影をする方々が多く見受けられた。次年度は、新設される大手門の堀の親水遊歩道とマッチした景観となるようライトアップの方法を検討いただいている。
- ・グルメパスポートは、千秋蓮まつりに訪れた来場者を周辺飲食店へ誘客する為、LINE アカウントを活用した誘客事業を実施した。
- ・千秋公園夜観光は、観光客を対象に秋田市竿燈会の協力のもと7月28日・29日の2日間、エリアなかいち にぎわい広場で秋田市竿燈会直前合同練習会を実施し、延べ1,200人が来場した。
- ・LOTUS FESTIVAL は、7月は大雨の影響で縮小開催・中止としたが、8月19日・20日の2日間は秋田市文化創造館屋外エリアを会場に、ナイトマーケットや照明演出などのナイトイベントを実施した。エリアなかいちの盆踊り in なかいちや秋田駅前西口広場のエキマエ、はじまる。さんど市と連携し、夜の中心市街地の回遊性を高めた。
- ・蓮の花フォトコンテストは、Instagram を活用し千秋公園の蓮の花の魅力を全国に発信した。3年目となる今回は、663人から823件の投稿があり、これまでと異なった視点や工夫された写真の応募があった。

### ② 10/8 広小路バザールについて

事務局が以下のとおり報告した。

- ・7月の開催は記録的大雨で中止となったが、10月8日は晴天に恵まれ、過去最多の75店が出店し、来場者は過去最多5万人、経済波及効果は4億4千万円となった。

## (3) あきた芸術劇場ミルハス開館1年の経過状況について

あきた芸術劇場ミルハスの進藤館長が以下のとおり報告した。

- ・利用状況について、令和4年6月から令和5年3月までの一般来場者数は422,824人、大・中・小ホール利用者数は207,056人（稼働率74%）であった。1階練習室等は、オープン当初、周知不足から利用者が少なかったが、徐々に知られるようになり、研修室・創作室・練習室の利用者数は19,808人（稼働率50%）となり、合計で227,807人となった。

- 令和5年4月から11月は、一般来場者数は446,706人と、年度末には60万人程度を見込んでいる。ホールは、秋田市文化会館の閉館やアトリオンの改修工事に伴う休館などが重なり高い利用率となった。大ホールは10月・11月が稼働率100%、中ホールは8月・9月が稼働率100%となり、月別では4月は低いものの6月以降8割から9割と高い稼働率となり利用者数は275,954人となった。1階練習室等は27,503人と昨年よりも増え、合計で304,392人となり、今年度の目標としていた35万人を上回るペースである。
- 中心市街地活性化関連の独自イベントの実施状況については、7月14日ロータスフェスティバル（千秋蓮まつり）と連携して、県マジック同好会によるマジックショーを実施した。当日は生憎の大雨で60名ほど来館したが、残念ながらその後のイベントは中止となった。8月29日ミルハスロビーコンサートをフレアールAKITAと連携し、民謡や歌謡曲、アコーディオン演奏のロビーコンサートを無料で実施したところ50名が来場した。広小路バザールとの連携は、7月は残念ながら豪雨災害の為に中止となったが、10月8日は同実行委員会事務局と調整のうえ、「こどもプレイルーム」と称した子どもが遊べる場をミルハス内に設置し、654人が参加し好評を得た。そのほか、ミルハスインスタフォトコンテスト（年4回）、ミルハスグランドオープン1周年記念「千のハスを咲かせよう」を実施し、秋田市文化創造館と秋田市にぎわい交流館AUとの連携事業を来年2月と3月にそれぞれ予定している。
- 令和6年度も同様のイベント実施予定であるが、令和6年4月から秋田市で大手門の堀の遊歩道が供用開始となることや、秋田県やJR東日本等による冬季観光の推進に伴い、周辺施設や関係団体と連携した賑わい創出に一層取り組んでいきたい。
- ミルハスでは、1階に総合案内を設置し来館者の問合せに対応しているが、9割がミルハス館内に関する事で残り1割は観光客等からの中心市街地に関連した内容である。主な内容は資料のとおりだが、秋田空港からリムジンバスで訪れた方から「アトリオン、なかいち、美術館、秋田駅等の所在場所の照会」のほか、「ATMやコンビニ」に関する問合せが意外に多い。また、クルーズ船の外国人から「クレジットカードで日本円に両替できる場所はないか」との問合せがあった。最近、クルーズ船の外国人客が増えて来たことから、ミルハスを紹介する英文パンフレットを作成中である。

#### <意見・質問>

辻会長が以下のとおり発言した

- 英文パンフレットを作成するのであれば、今月から台湾便も就航しているので、中国語も付け加えていただきたい。

あきた芸術劇場ミルハスの進藤館長は以下のとおり発言した。

- 英文パンフレットを取り急ぎ作成しているが、他言語についても今後作成を検討したい。

#### (4) 秋田市外旭川地区まちづくり基本計画素案について

秋田市企画財政部まちづくり戦略室の児玉参事が以下のとおり報告した。

- 【1章 基本計画の位置付け】では、昨年度まちづくり基本構想で示した2つの目的の実現の為に、官民連携による様々な取組を進めることや卸売市場、新スタジアム及び民間施設の整備を

一体的に進めていくことなどを記載しているほか、外旭川地区の交通・物流機能に優れた地域性と泉外旭川駅開業などによる利便性向上が見込まれることを記載している。また、本まちづくりの事業パートナーであるイオンタウン(株)が、今後も本市とともに公共的な役割を担う代表事業者及び事業主体として参画することとし、官民連携で取り組む外旭川地区のまちづくりは民間事業者に対してもメリットのある地域未来投資促進法の支援措置を活用できるようにすることが有効と考えている。同法による支援措置として、固定資産税の課税免除など税制面の支援や信用保証協会による債務保証などの金融面の支援、土地利用規制の特例措置などがある。

- 【2章 モデル地区の範囲】では、当該地区と周辺施設等との位置関係を示している。
- 【3章 官民連携による取組】では、本市が抱える課題解決に向け、モデル地区において官民連携で行う取組や施設機能について記載しており、本市が抱える課題と課題解決に向けた官民連携による8つの取組を記載しているが、継続的に追加や見直しを図ることとしている。課題解決に向けた官民連携による施設配置と取組を展開するフィールドではモデル地区内の各施設の位置を示し、イメージパースや基本計画図で各施設の規模等を掲載しているが、現時点でのイメージであり今後変更となる場合がある。また、現時点における民間施設の事業主体や事業内容、参画を表明している企業名を記載しており、「観光・集客施設1」は若者や様々な業種の企業が交流できる場や従来の商業施設と異なる体験・参加型の施設、「観光・集客施設2」は秋田ならではの食が集まるエリアや名産品のファクトリーなど、秋田を味わい、体験・感動を生み出す施設、「農園」は来場者が最新の農業に触れる機会を創出するほか産学官連携による栽培技術や先端技術の実証・展示、「多世代交流施設」は次世代医療の提供を目指す健康増進拠点や最先端の健診施設などをそれぞれ整備する。
- 【5章 地域への経済効果】では、モデル地区の整備に伴う本市における経済波及効果を建築工事等による建設効果と来場者による消費効果について、平成27年秋田県産業連関表をもとに推計した。推計した結果は、建設による効果が約651億円、創出される従業者数が6,437人、来場者による消費効果が年間約274億円、創出される従業者数が3,423人となった。なお、モデル地区整備に伴いマイナスの影響も懸念されるが、影響を最小限にする為、モデル地区の民間施設は観光・集客施設を中心に検討しており、既存商業施設等との棲み分けや連携を図ることとし、モデル地区整備にあたり事業主体に対して積極的な地元企業の起用や地元建材等の活用を働きかけるほか、観光・集客施設等への出店においても商工団体等からの協力を得ながら地元企業の参入について働きかけていく。
- 【6章 推進体制】では、次年度以降まちづくりに地域の声を取り入れ、さらなる発展と地域全体への波及効果を生み出す体制を構築し、モデル地区で創出される賑わいを中心市街地や既存商店街等に波及させる取組を継続して行う。
- 【7章 事業スケジュール】では、地域未来投資促進法関連について、同法に基づく基本計画を県と市共同で作成し、来年3月の国への同意・申請を目指している。施設整備の民間施設整備は令和8年の着工を目指したスケジュール、卸売市場再整備は現在の検討過程のスケジュールを記載している。新スタジアム整備は、現在候補地を含めて検討している段階で、ブラウブリッツ秋田が来年2月に作成する整備計画を踏まえて記載することとしている。
- 本基本計画(素案)については、市議会11月定例会とパブリックコメントの意見を参考にしながら引き続き検討し、来年1月31日開催予定の第4回まちづくり懇話会において「まち

づくり基本計画案」として示す予定。なお、本日の資料は抜粋版となるが、全体版は秋田市ホームページにて公開している。

## 【情報提供】

### (1) 東北経済産業局からの事業紹介

## 【その他】

秋田市広小路商店街振興組合の佐々木委員長が以下のとおり発言した。

- ・懇談では、まちなかウォークブル推進事業に関する大事なお話をお聞きした。中央街区に秋田中央道路が開通したが、当時の整備目的や秋田市の都市機能への寄与度合など、まずは評価・検証することが必要。それらを踏まえたうえで、何が良くなって悪くなったのかが分かれば、中心市街地の一方通行解除を含めまちなかウォークブルを推進するうえでの指標となる。整備から十数年が経過し、人口減少の影響や交通量の変化等が見えてくると思うので、秋田中央道路の効果測定をお願いしたい。
- ・NPO 秋田バリアフリーネットワークの菅原委員が「佐竹史料館の平面図がどこに公表されているか分からない」と質問された。また、あきた芸術劇場ミルハスの進藤館長から「所在場所の照会に関する問合せ」が総合案内にあるとの報告だったが、秋田市に案内サイトが無いということに危機感を覚える。個々でホームページを開設しているとの話は方々から聞くが、1か所で探せるサイトが無い為、当協議会で情報発信の一元化に向けた提言をお願いしたい。
- ・外旭川地区まちづくり基本計画（素案）は、過去にあったデジャブのように感じる。この十数年で環境が変化したにもかかわらず、まちづくりの成果としては少し寂しい。
- ・あきた芸術劇場ミルハスにだが、来年度周辺の櫓に東北最大級となるイルミネーションをしてはどうか。遊歩道が整備され市内の観光資源が整っていくにあたり、動きのあるイベントで効果のある地域演出を検討いただきたい。

辻会長が以下のとおり発言した。

- ・中心市街地の一方通行解除は、前回協議会で調査報告を行ったが、秋田商工会議所ではなく当協議会において進めていきたいと考えている。ただ、民間だけでは難しい為、行政や警察も含めて協議する必要があると考えている。
- ・情報発信の一元化については、必要性を感じている。先日盛岡市を訪れた際にガイドブックを配布されたが、実施主体は別としてしっかりと協議したい。

秋田公立美術大学の小杉委員が以下のとおり発言した。

- ・外旭川地区まちづくり基本計画（素案）について、中心市街地との相乗効果が記載されているが、外旭川地区まちづくりプロジェクトが進み、中心市街地よりも土崎や御所野などの周辺エリア・商業地域への影響度合の方を危惧している。その記述が無く、県内・市内への経済的な効果は当然予測できるが、周辺地域の事業者がどう考えているのかが気になる。これまでは中



心市街地との関係性について議論されてきたが、周辺地域も含めて当協議会で協議・検討する必要がある。

辻会長が以下のとおり発言した。

- 秋田商工会議所としては、秋田市内で顧客の取り合いをするのではなく、如何に外貨を稼ぐか、どれ位の想定をしているのか、を示して欲しい旨をパブリックコメントとして出しているが、その辺も踏まえての回答を望む。

閉 会